

**平成25年度商業・商店街振興助成金事業**

**街づくりカフェ報告書**

**岩国市中通商店街振興組合**

主催	岩国市中通商店街振興組合
事業名	街づくりカフェ
事務局	〒740-0018 山口県岩国市麻里布町3丁目13-2
電話	0827-22-3978 (FAX共用)
事業期間	自平成25年8月1日・至平成26年2月10日
助成事業名	平成25年度商業・商店街振興助成金
助成団体	公益財団法人やまぐち産業振興財団
後援	岩国市、岩国商工会議所、やましろ商工会 岩国駅前を活性化する会、(株)街づくり岩国 (株)ザメディアジョン・リージョナル (株)アイ・キャン、(株)日刊いわくに

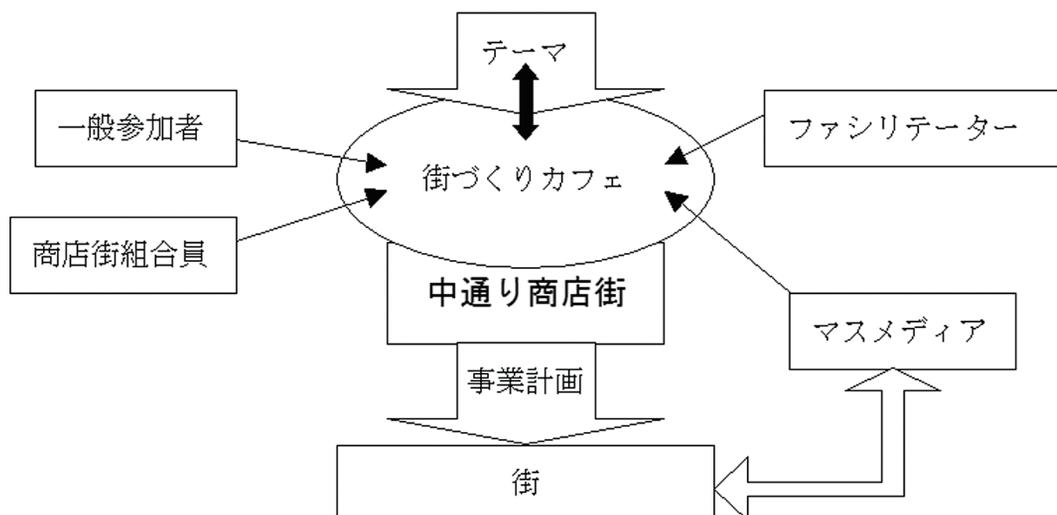
### ■概要

岩国市では平成18年度から新体制のもとで中心市街地活性化基本計画の策定に向け、中活協議会および街づくり会社を設立し、様々な事業計画を立て、岩国の街づくりに取り組んでいる。JR岩国駅や駅前広場、中心商店街を包括する中活指定市街地における各団体の活動は、20年後、30年後の暮らしを形成する素地となるものであり、より多くの地域住民や団体、行政機関、商店街が密接に連携を図ることが重要になる。本事業はこうした背景の中で、商店街振興組合が主体となって取り組んだものである。

今後の駅前像を考えると、中通り商店街の近隣地区へ開業間近だった老健施設、介護老人福祉施設「ヴィータ」とサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の存在が、今後の駅前の大きなキーワードになることが予測された。「街づくりカフェ」はヴィータ内へ併設される予定の「地域交流センター」の利用を想定し、討論の材料となる情報収集を行いつつ、開催時期を調整した。

実際に開催した3回の「街づくりカフェ」では、岩国の街に関心を持つ商店街の内外の人が集い、様々なテーマに沿った討論会を開催し、最終回のカフェでは一つの提言を導き出すことができた。

また「街づくりカフェ」は、地元ケーブルテレビ会社「(株)アイ・キャン」による映像版「街づくりカフェ」の制作を要請。後のテレビ番組の放映を見ることで、カフェに参加した人だけでなく関心をもつ多くの人々に街づくりの意識づけができるよう図った。



## ■第1回 街づくりカフェ

開催日 平成25年11月29日（19時～20時30分）

場 所 （株）アイ・キャン会議室

参加者数 8名

スムーズなカフェ運営を行うために、参加者の情報格差をなくしておくことが望ましいことから、初回のカフェでは岩国駅前エリアの現状を話し合い、広く情報を共有する作業から始めた。参加者は商店街から5名、一般3名の8名。

カフェの中では各人が持っている駅前情報を述べ、重複する事柄や不確かな情報をブラッシュアップ。商店街のどこに問題や課題があるか、また商店街自体の存在意義があるのかという点にまで踏み込んで話し合った。

終盤に入り討論を整理し、次のようなキーワードが浮き彫りになった。これらを題材にして、次回のカフェでは意見をまとめるファシリテーターを招き、本格的なカフェを開催する。

### << キーワード >>

商店街はオワコンか？

近未来の街づくり、医商連携とは？

（岩国駅前に）若者は不要か？

軽トラ市の見直しと未来像

お年寄りとお年寄りが共存する街づくり

幼児の見守りとお年寄り

地域交流センターの活用

都市型の交流施設

働く人の託児

子どもが行きたくなる街

近隣保育園と（施設スタッフとしての）高齢者の連携

連携フィールドは公園＋安全安心の商店街

駐車場の需要

議論の範囲

50年後の推計人口8千万人

コンパクトシティ→自宅訪問介護



いま岩国駅前が大きく変わろうとしています。駅舎の建て替えや、大型の福祉介護施設が誕生する中で、「中通り商店街はどうあるべきか」駅前を思う住民の皆様と商店街で、地域活性化について話し合うフォーラムを開催します。

# 街づくりカフェ

(平成25年度商業・商店街振興助成金事業)

●第1回街づくりカフェ  
事前にお申し込みが必要です。  
とき 平成25年11月29日(金)18:30~19:30  
ところ 中通り商店街「旬鮮市場ととや」2階  
会費 3000円(懇親会つきで開催します)  
募集人数 5名程度・定員になり次第締め切り  
募集資格 地域活性化を考える方

●第2回街づくりカフェは、  
平成25年12月7日(土)夕刻から  
開催を予定しています。

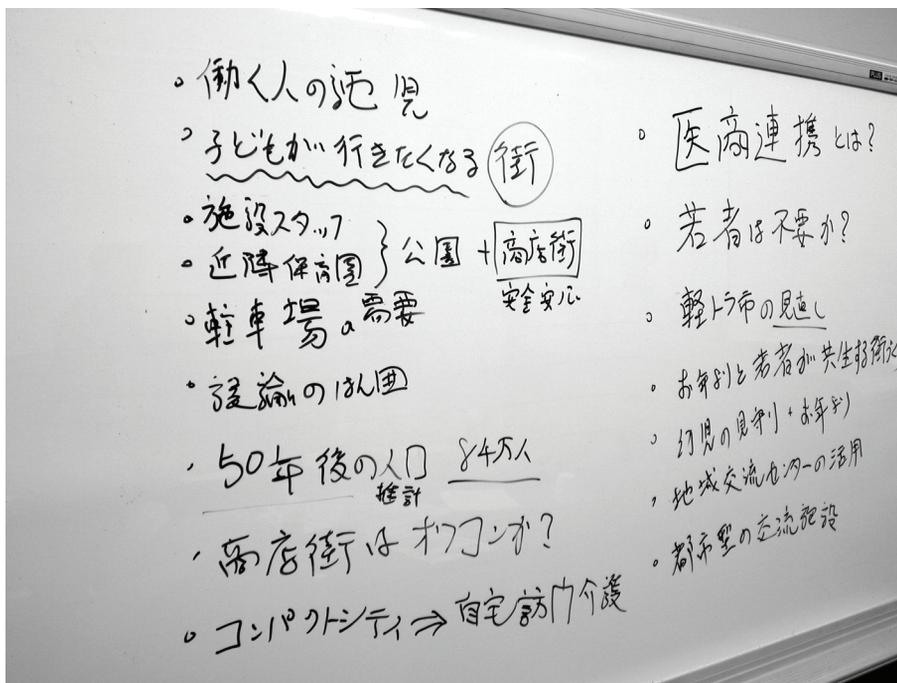
お申し込みは公式ホームページからお願いします。  
<http://www.nakadoori.jp/>

■主催 街づくりカフェ実行委員会・岩国市中通商店街振興組合 ■協賛 岩国市・岩国商工会議所・岩国駅前を活性化する会・(株)街づくり岩国・(株)メディアジョンリージョナル

## △公募広告



△カフェの様子



## △キーワード

## ■第2回 街づくりカフェ

開催日 平成25年12月7日（18時30分～20時00分）

場 所 地域交流センター（ヴィータ内）

参加者数 15名

第2回街づくりカフェでは、商店街から2名、一般公募による参加者が12名、ファシリテーターに北尾氏を招き、奥行きのある討論会が展開された。参加者の中にはフェイスブックを介して大分県から、また、新聞折り込み広告を介して広島県からの出席者もあり、それぞれの地域性や経験から多彩な意見が出された。

商店街の中から見た岩国駅前と、外から見た駅前。さらには市外・県外から見える岩国の様子などは視点やスケールが大きく異なり、相対的な街づくり観を養う効果的な機会だった。

論点としては大きく二つの事が目立った。一つは「駅前の将来の主体は高齢者か若者か」という視点。高齢者を主体にする観点は、駅前エリアに開業した老健施設を捉え、便利なコンパクトシティを目指すべきとする意見と、それに対して、駅前に若者が居なくなったから賑わいが失われたとする観点から、若者を呼び戻すための街づくりを目指すべきという意見。

双方の討論は充分に尽くされるに至らず、メリットやデメリット、特徴的な事柄が話し合われ、次回に持ち越した。なかんずく「医商連携」のキーワードは岩国の現状に密接な関わりをもつもので、先進地への視察の必要性が論じられた。

もう一つは「商店街の魅力」に関わる視点。わずか500mほど離れた地域に開業したショッピングモール「カジル岩国」の影響や、個店の魅力の欠如が指摘され、また商店街の明度や美観にも言及された。ストロー効果はやむを得ないとしても、人柄や品揃えのこだわりなどで特色を出すべきなどの意見が出された。これを受けて商店街では、歳末に向けて空き店舗前の清掃活動を実践した。

第2回街づくりカフェでは、こうした討論を経て5つのキーワードが導き出された。

- 1) 岩国らしさ
- 2) 500mの壁
- 3) 明るい商店街
- 4) 人柄
- 5) コミュニケーションサービス



いま岩国駅前が大きく変わろうとしています。駅舎の建て替えや、大型の福祉介護施設が誕生する中で、「中通り商店街はどうあるべきか」駅前を思う住民の皆様と商店街で、地域活性化について話し合うフォーラムを開催します。  
(平成25年度商業・商店街振興助成金事業)

## 第2回 街づくりカフェ

●第2回街づくりカフェ  
事前にお申し込みが必要です。  
とき 平成25年12月7日(土)18:30~20:00  
ところ ヴィータ内・地域交流センター  
会費 無料  
募集人数 10名程度・定員になり次第締め切り  
募集資格 地域活性化を考える方  
懇親会 終了後、任意のご参加で懇親会を行います

ファシリテーターには、北九州シティFM「しってるシューカツ」でお馴染みの、(株)メディアジョン・リジョナル代表、シャッフル北尾こと北尾洋二さんを招きます。

お申し込みは公式ホームページからお願いします。  
<http://www.nakadoori.jp/>

■主催 街づくりカフェ実行委員会・岩国市中通商店街振興組合 ■後援 岩国市・岩国商工会議所・岩国駅前を活性化する会・(株)街づくり岩国・(株)メディアジョン・リジョナル

### △公募広告

### 街づくりカフェ・テーマ資料

#### 岩国駅前地域をとりまく現在の環境

<p>1) 駅周辺整備事業 63億円余りの負担額を議会へ上程 駅舎建て替え 27年着工(約3年) 駅前広場改修 28年着工(約3年)</p> <p>2) 介護老人福祉施設ヴィータ(錦福祉会) 12月1日開業 雇用50名 60室</p> <p>3) 総合福祉センター・リタイアメントタウン(新生命) サービス付き高齢者向け住宅・デイサービス・クリニック 3月開業 雇用150名 130室</p> <p>4) 岩国錦帯橋空港 開港一周年 平均稼働率70%を堅持</p> <p>5) 中通り商店街アーケード改修 今年度完成</p> <p>6) 経トラ新解組! 4年が経過</p> <p>7) 岩国市企業誘致等促進条例(宗貨補助制度 平成20年4月) アーケード負担金を伴う店舗等</p> <p>8) 中心市街地活性化基本計画 平成18年より取り組み、認定の目処</p>	<p>9) 駅前地域の再開発準備組合 南街区再開発準備組合 再開発準備組合いきいき東 麻里布2丁目地区市街地再開発準備組合</p> <p>10) インフラ環境 JR広島岩国30分構想 新幹線~新岩国の接続 南バイパス 岩国大竹道路の開通(平成28年頃)</p> <p>11) ゾーン30 ウォークアブルタウン</p> <p>12) 研究と試み 不動産事業者懇話会 医師連携 老朽建物の除却と駐車場化の増進</p> <p>13) 商店街イベント 麻里布酒祭 土曜夜市 駅前真祭り イルミネーション祭</p> <p>14) 駅前地域の組織等 中通り 本通り 中央通り 有楽通り 歌楽街(科状組合) YMCA</p>
---	---

### △当日配布資料



### △カフェの様子

## ■第3回 街づくりカフェ

開催日 平成26年1月17日（18時30分～20時00分）

場 所 地域交流センター（ヴィータ内）

参加者数 15名

第3回街づくりカフェでは、商店街から3名、一般公募による参加者が12名、再びファシリテーターに北尾氏を招いて開催。一応のまとめに向けた開催となった。出席者の約半数が連続出席、半数が初回出席となった。

前回のカフェで導かれた5つのキーワードをもとに、新たな意見を加えて論議を深める。高齢者と若者の比較や占有などは大きな問題ではなく、商店街に人が集うきっかけをつくる事が大事。商店街を人々のコミュニティと捉え、人や物や事が交流する「場」としての存在意義がクローズアップされる時代がくる、などの意見が交わされる。

また、周防大島の事例をもとに、若者が島へ定住したことなどから、IJUターンを促す居住人口の増加対策が有効ではないか、と論議が進む。岩国の駅前地区の居住人口の増加は、サ高住などの施設が増加することが予測される。また公共交通機関が揃っている利便性は、戸建ての団地住まいから、駅前立地のマンションへ住み替えを希望する時代がきており、周防大島とは環境や条件が異なる。

むしろ商店街に隣接する老健施設を鍵にした高齢者の住みやすい街の姿が理想の一つではないか。今後、全国的な人口減少をたどる地方都市では同じようなケースが見られることが予見される。熊本市健軍町の事例などを討論の中へ落とし込んだ結果、岩国の駅前も地域性や特徴を活かした「医商連携」が重要な鍵になる、と結ばれた。

こうした話し合いから、満場一致で次のような一つの提言が生まれた。

**町を使いたおし**  
**様々な人々が**  
**立場、世代を超えて**  
**新しい町・商店街をつくる**



いま岩国駅前が大きく変わろうとしています。駅舎の建て替えや、大型の福祉介護施設が誕生する中で、「中通り商店街はどうあるべきか」駅前を思う住民の皆様と商店街で、地域活性化について話し合うフォーラムを開催します。  
(平成25年度商業・商店街振興助成金事業)

## 第3回 街づくりカフェ

●第3回街づくりカフェ  
事前にお申し込みが必要です。  
と き 平成26年1月17日(金)18:30~20:00  
と ころ ヴィータ内・地域交流センター  
会 費 無料  
募集人数 10名程度・定員になり次第締め切り  
募集資格 地域活性化を考える方  
懇親会 終了後、任意のご参加で懇親会を行います

ファシリテーターには、北九州シティFM「しってるシューカツ」でお馴染みの、(株)メディアジョン・リージョナル代表、シャッフル北尾こと北尾洋二さんを招きます。

お申し込みは公式ホームページからお願いします。  
<http://www.nakadoori.jp/>

■主催 街づくりカフェ実行委員会・岩国市中通商店街振興組合 ■後援 岩国市・岩国商工会議所・岩国駅前を活性化する会・(株)街づくり岩国・(株)ザメディアジョン・リージョナル

### △公募広告



△ファシリテーター



△カフェの様子

## ■熊本市健軍町視察

日 程 平成25年12月11日（日帰り）

場 所 熊本市健軍町・健軍商店街ピアクレス

参加者 松川卓司、松井宏通、安間俊朗、藤田信雄（以上4名）

歳末も押し迫った水曜日、九州新幹線を使って熊本市健軍町商店街へ視察に赴いた。全国の商店街にあって当地は「医商連携」の成功事例として有名な所。商店街の近隣にある老健施設や病院と連携し、街が活性化していると聞いていた。

新岩国から約2時間ほどで熊本へ到着。市内の大型商店街、下通り・上通り商店街を散策した後、およそ30分の路面電車を経て夕方の約束時刻前に健軍町へ入る。

健軍商店街ピアクレスは、電停を降りたらほぼ正面からアーケードが始まる好立地。熊本駅前の中心部が抱える住宅地として戦後の歴史があるという。高度経済成長期には栄えたが、他都市と同じく衰退の途を辿った経緯がある。商店街では、活性化を目指してお買い物宅配事業や地域マップを手がけた折り、近隣地域に病院が多い事実がわかり、高齢者の福祉をテーマにした活性化策を次々に打ち出し、成功したとされていた。

現在では、宅配タクシー事業を地元の民間タクシー事業者（肥後タクシー）へ委譲し、商店街の空き店舗を活用した高齢者向け情報コーナー（元は図書館）である「よって館ね」の運営もまかなっている。そのほか新たな事業展開として「筋肉く〜ぼん貯筋運動」の推進。高齢者向けのリハビリ運動と商店街クーポン券を連動させることで、商店街を高齢者のリハビリの場として活用させ、活性化を図るといふ。

商店街の実態は、しかしながら建造物の老朽化も進み、空き店舗が多く、賑わいという点では淋しさが拭えない。高齢者の活動拠点となる「よって館ね」を中心とした事業展開に、商店街の各店との細やかなリンクが欠けているのかもしれない。

中通り商店街にこの事例を落とし込んだ場合を想定すると、やはり近隣の老健施設との直接的な連携、空き店舗の活用に加えて、商店街各店との関わりを事業化させること、また既存事業である軽トラ市（軽トラ新鮮組！）との連携が、街の賑わいを生み出し、かつ外部からの評価を向上させる道筋になるだろう。

視察先では、健軍商店街振興組合理事長の刃羽逸朗（みわいつろう）氏を訪ね、組合事務局で約1時間の話を聴講し、いくつかのポイントを掴んで視察を完了した。

△健軍商店街視察



## ■総論

街に対するいろいろな期待や思いを持つ住民、市民の声が、実際の街づくりに反映されるチャンスは意外に少なく、知らない間にどこかで誰かが決めた計画に沿って街がつくられてしまい、結果として出来上がった街に不満を抱いて暮らす人は少なくない。

街づくりカフェは、街を構成する商店街の将来像を考える上で、商店街の中からだけでなく、広く様々な立場の人の意見を集め、話し合う場の提供だった。語り合うことで新たなアイデアや発想に触れ、また別の理想が生まれ、自分自身の身におきかえて考える機会を得ることにより、人それぞれの街づくりに対するアプローチができるようになる。

街づくりは地域住民の意識づけから始まるということ。住みやすい街にするのは行政だけの役割ではなく、そこに暮らす人々の思いや理想、そして理解と協力が集結してこそ成せるものではないか。自助、互助、公助の仕組みを正しく理解して実践する必要がある。

今後の「カフェ」の開催を望む声は非常に多くあり、その中には「中通り商店街が永続的に実施する会」と思い込んでいたケースさえあった。見方を変えれば、それだけ街に対する思いを持つ人が沢山あるという証左でもあり、それは本事業の効果の一端でもある。

その点から、今後のカフェの進め方について、いくつかの課題が残ったことを記しておく価値がある。

一点めは、参加者の入れ替えが必ずしもスムーズな運営に寄与しなかったこと。街に対する思いを持つ人々の持論は、おおむね似たところに根ざす。それは「若者か、高齢者か、人材か」であり、この導入の討論が毎回のカフェで同じように前半の時間を費やしてしまう。しかし入れ替わりを無くしてしまうと、論議は限定的になりがちで、カフェの新鮮な意見交換の場がスポイルされてしまう。バランスを図り、継続していくことで正論に辿り着くのではないだろうか。

もう一点は、中立的な立場のファシリテーターが必須であること。商店街内部の人材や、その地域に直接利害をもつ人物が司会を執ると、どうしても心理的な偏重が拭えない。広く公平に意見を捉え、きちんとまとめて結論を見出す能力をもった人材が、街づくりカフェには必要である。

本事業の様子は新聞報道だけでなく、ケーブルテレビ番組でも1時間尺で2本のドキュメンタリーが放映される予定（平成26年2月予定）。こうした点を踏まえ、大きな費用をかけずに商店街が「街づくりカフェ」を運営していくことが望まれている。